

佐賀県研究成果情報（平成20年度）

佐賀県内の露地カンキツ園で採集されたミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性					
[要約] 露地カンキツ園のミカンハダニは、現在使用されている多くの殺ダニ剤に対して感受性が高い。しかし、マイトコーネフロアブル及びマイトクリーンに対する感受性は低い傾向が認められるため、露地カンキツ園のミカンハダニ防除では両剤の使用を控える。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	果樹虫害	対象	カンキツ

[背景・ねらい]

ミカンハダニを効果的に防除するためには、各殺ダニ剤に対する感受性を把握することが重要である。そこで、各種殺ダニ剤に対する露地カンキツのミカンハダニの感受性を調査し、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 露地カンキツ園のミカンハダニは、パノコン乳剤、ダニエモンフロアブル、スターマイトフロアブルに対する感受性が高い（表1、2）。
2. コロマイト水和剤、バロックフロアブル、カネマイトフロアブル、オマイト水和剤、ダニカット乳剤、ダニサラバフロアブルに対するミカンハダニの感受性は園ごとに異なる（表1、2）。
3. マイトコーネフロアブル及びマイトクリーンに対するミカンハダニの感受性は、低い傾向が認められる。そのため、露地カンキツ園では両剤の使用を控える（表1、2）。
4. なお、浜玉町2、3のミカンハダニのダニサラバフロアブルに対する感受性が低い原因として、採集地周辺の施設カンキツ園からダニサラバフロアブルに対する感受性の低いミカンハダニが移動して、発生した可能性が考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 露地カンキツ園のミカンハダニ防除薬剤を選択する際の資料として活用できる。
2. 本試験は卵の感受性を検定しており、幼虫・成虫の感受性は検定していない。
3. ミカンハダニの感受性の低下を避けるため、冬期及び5月～6月はマシン油乳剤を使用し、殺ダニ剤の使用は、8月下旬以降とする。同一年及び前年散布した殺ダニ剤は、使用しない。
4. 周囲に施設カンキツ園がある露地園では、ダニサラバフロアブルに対する感受性が低い可能性があるため、使用を避ける。
5. コロマイト水和剤、バロックフロアブル、カネマイトフロアブル、オマイト水和剤、ダニカット乳剤に対するミカンハダニの感受性は、園ごとに異なる。そのため、使用する際は事前に園内の1～2樹に散布して、効果を確認することが望ましい。また、事前散布した樹では、再散布しない（散布回数が2回となるため）。

[具体的データ]

表 1 露地カンキツ園から採集したミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性 (2008年:その1)

採集地	補正死亡率 (%)						
	コロマイト 水和剤 6,000倍	パロック フロアブル 6,000倍	カネマイト フロアブル 3,000倍	マイトコーネ フロアブル 3,000倍	オマイト 水和剤 2,250倍	パノコン乳剤 2,100倍	
浜玉町	1	95.2	92.2	79.2	43.0	92.0	99.2
	2	88.4	59.9	45.5	33.0	98.4	100.0
	3	98.9	81.4	76.3	13.0	97.6	100.0
小城町	1	50.4	100.0	91.2	50.8	31.0	100.0
	2	85.9	97.8	69.4	26.2	45.6	100.0
大和町	1	85.5	100.0	76.8	35.7	96.4	100.0
太良町	1	100.0	100.0	100.0	68.9	66.2	100.0
	2	96.8	96.1	100.0	64.6	85.9	100.0
	3	100.0	92.1	100.0	0.0	100.0	100.0
鹿島市	1	96.7	95.9	98.8	26.6	57.7	100.0

注 1) 補正死亡率 (%) = $\frac{\text{水処理区の生存率} - \text{試験区の生存率}}{\text{水処理区の生存率}} \times 100$

注 2) 浜玉町は2008年8月26日, その他地域は9月26日に採集。

注 3) 感受性検定はリーフディスク法で行い, 供試薬剤 (常用濃度の1/3希釈液) に卵を約10秒間浸漬し, 浸漬10日後に未ふ化卵数, 死亡虫数, 生存虫数を調査した。

表 2 露地カンキツ園から採集したミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性 (2008年:その2)

採集地	補正死亡率 (%)					
	ダニカット 乳剤 3,000倍	マイト クリーン 6,000倍	ダニエモン フロアブル 12,000倍	ダニサラバ フロアブル 3,000倍	スターマイト フロアブル 6,000倍	
浜玉町	1	87.4	33.9	100.0	89.4	100.0
	2	71.1	32.5	100.0	37.1	100.0
	3	46.6	18.6	99.0	53.6	100.0
小城町	1	64.6	17.2	100.0	93.1	100.0
	2	46.6	40.1	93.1	96.3	100.0
大和町	1	52.2	44.0	98.9	97.2	100.0
太良町	1	79.2	30.8	96.0	97.3	100.0
	2	81.5	40.0	98.5	100.0	100.0
	3	73.4	22.5	99.1	87.5	100.0
鹿島市	1	63.1	7.4	94.0	97.7	100.0

注 1) 補正死亡率 (%) = $\frac{\text{水処理区の生存率} - \text{試験区の生存率}}{\text{水処理区の生存率}} \times 100$

注 2) 浜玉町は2008年8月26日, その他地域は9月26日に採集した。

注 3) 感受性検定はリーフディスク法で行い, 供試薬剤 (常用濃度の1/3希釈液) に卵を約10秒間浸漬し, 浸漬10日後に未ふ化卵数, 死亡虫数, 生存虫数を調査した。

[その他]

研究課題名: 佐賀県内の露地カンキツ園で採集されたミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性

予算区分: 国 補 (農薬耐性菌検定事業)

研究期間: 2008年度 (1995年度 ~)

研究担当者: 近藤知弥, 口木文孝, 井手洋一

発表論文等: 口木文孝・近藤知弥・井手洋一 日本応用動物昆虫学会大会 (第53回, 2009年) で発表

平成20年度 佐賀県果樹試験場業務年報